

中小企業景況調査報告書

2023年10～12月期実績
2024年1～3月期予測

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、国・道の指定事業として、全国商工会連合会を中心に昭和54年から全国一斉に実施しているものである。
調査要領と、北海道分の調査対象20商工会の回答企業数は、次のとおりである。

1. 調査要領

- (1) 調査対象時期等
①調査対象時期：2023年10～12月期の実績及び2024年1～3月期見通し
②調査期間：2023年11月1日～11月15日 ※調査時点は2023年11月15日
- (2) 調査方法
①商工会の経営指導員等による訪問面接調査
②調査対象企業の抽出は、業種・規模等の有意抽出法による。
- (3) 調査対象商工会
①人口～9,999人・・・せたな、ニセコ町、積丹町、北竜町、南富良野町、遠別枝幸町、安平町、大樹町、本別町、標茶町
②人口10,000～29,999人・・・七飯町、えんがる、湧別町、新ひだか町、別海町
③人口30,000人～(市に含まれる)・・・石狩北、北斗市、いわみざわ、あさひかわ

(4) 回答企業数

業種	調査企業数	回答企業数	回答率	業種	調査企業数	回答企業数	回答率
製造業	51	51	100.0%	小売業	85	82	96.5%
建設業	48	47	97.9%	サービス業	116	111	95.7%
				合計	300	291	97.0%

※設備投資の設問については、未回答の企業があるので回答企業数とは一致しない業種があります。

- (5) D I = ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)とは？
前年同期と比べて、「増加(上昇・好転)」-「減少(低下・悪化)」の回答企業の比率。
例えば、売上高が前年同期比で「増加」回答企業50%、「不変」回答企業30%、「減少」回答企業20%の場合、D I は $50-20=+30$ となり、売上高の面では「増加(上昇・好転)」気運であることを表わす。

2. 全業種の業況（前年同期比、前期比の推移） ※D I 値のみ

業種	前年同期比		前期比					
	今期	来期見込	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	今期	来期見込
製造業	▲ 9.8	▲ 19.6	▲ 18.8	▲ 17.8	10.0	6.0	▲ 11.8	▲ 25.5
建設業	▲ 14.9	▲ 14.8	▲ 10.4	▲ 15.9	0.0	▲ 8.9	▲ 10.6	▲ 19.1
小売業	▲ 20.7	▲ 25.6	▲ 35.4	▲ 43.6	▲ 31.4	▲ 25.3	▲ 23.2	▲ 30.5
サービス業	▲ 31.5	▲ 26.1	▲ 26.4	▲ 34.6	▲ 12.7	▲ 13.6	▲ 31.5	▲ 24.3

3. 北海道内商工会地域の状況

製造業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R5. 1-3	R5. 4-6	R5. 7-9	今期	来期見込
業況	好 転	11.8	3.9	8.9	22.0	18.0	9.8	5.9
	不 変	66.6	72.6	64.4	66.0	70.0	68.6	62.7
	悪 化	21.6	23.5	26.7	12.0	12.0	21.6	31.4
	D・I	▲ 9.8	▲ 19.6	▲ 17.8	10.0	6.0	▲ 11.8	▲ 25.5
売上(加工)額	増 加	23.5	13.7	19.6	32.0	38.0	23.5	
	不 変	45.1	66.7	32.6	46.0	34.0	43.2	
	減 少	31.4	19.6	47.8	22.0	28.0	33.3	
	D・I	▲ 7.9	▲ 5.9	▲ 28.2	10.0	10.0	▲ 9.8	
資金繰り	好 転	3.9	2.0	2.3	8.2	8.2	2.0	
	不 変	82.4	84.3	79.5	77.5	79.6	84.3	
	悪 化	13.7	13.7	18.2	14.3	12.2	13.7	
	D・I	▲ 9.8	▲ 11.7	▲ 15.9	▲ 6.1	▲ 4.0	▲ 11.7	
原材料仕入単価	上 昇	68.0	60.0					
	不 変	30.0	38.0					
	低 下	2.0	2.0					
	D・I	66.0	58.0					
採算(経常利益)	好 転	7.8	3.9					
	不 変	62.8	76.5					
	悪 化	29.4	19.6					
	D・I	▲ 21.6	▲ 15.7					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

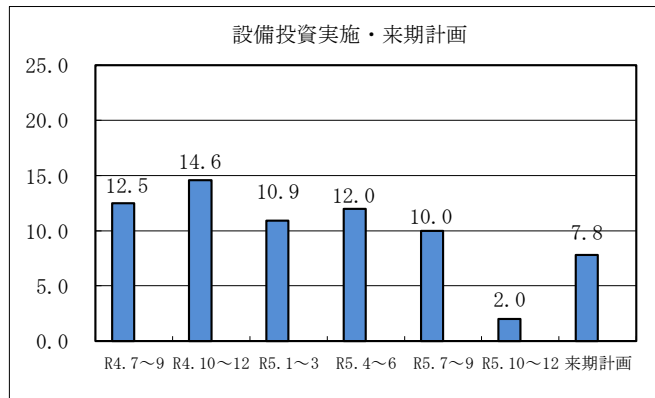
回答51事業所の内、1事業所(2.0%)が実施。

●生産設備=1事業所

【来期計画内容】

回答51事業所の内、来期に4事業所(7.8%)が計画。

●生産設備=3事業所、●付帯施設=1事業所



○ 今期の経営上の問題点(1位回答の多い順。同率の場合は1~3位回答合計による)

1位は前回同様の「原材料価格の上昇」で前回より0.8ポイント減少している。2位は前回3位だった「需要の停滞」で1.9ポイント増加している。3位は前回2位だった「従業員の確保難」で6.8ポイント減少している。4位は前回同様「生産設備の不足・老朽化」で1.9ポイント増加した。5位は前回番外だった「熟練技術者の確保難」で前回より4.2ポイント増加した。



建設業		主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）						
項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R5. 1-3	R5. 4-6	R5. 7-9	今期	来期見込
業況	好 転	8.5	4.3	9.1	17.0	8.9	6.4	6.4
	不 変	68.1	76.6	65.9	66.0	73.3	76.6	68.1
	悪 化	23.4	19.1	25.0	17.0	17.8	17.0	25.5
	D・I	▲ 14.9	▲ 14.8	▲ 15.9	0.0	▲ 8.9	▲ 10.6	▲ 19.1
完成工事 （請負工 事）額	増 加	29.8	19.1	15.6	26.1	31.1	25.5	
	不 変	42.5	55.4	44.4	36.9	48.9	44.7	
	減 少	27.7	25.5	40.0	37.0	20.0	29.8	
	D・I	2.1	▲ 6.4	▲ 24.4	▲ 10.9	11.1	▲ 4.3	
資金繰り	好 転	6.5	2.2	2.3	11.1	4.5	6.5	
	不 変	84.8	89.1	84.1	77.8	88.7	84.8	
	悪 化	8.7	8.7	13.6	11.1	6.8	8.7	
	D・I	▲ 2.2	▲ 6.5	▲ 11.3	0.0	▲ 2.3	▲ 2.2	
材 料 仕入単価	上 昇	73.9	54.3					
	不 変	26.1	45.7					
	低 下	0.0	0.0					
	D・I	73.9	54.3					
採算（経 常利益）	好 転	4.3	4.3					
	不 変	63.8	65.9					
	悪 化	31.9	29.8					
	D・I	▲ 27.6	▲ 25.5					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

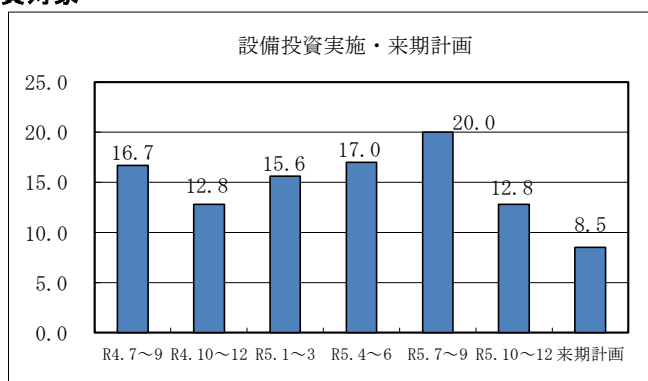
回答47事業所の内、6事業所（12.8%）が実施。

●車両・運搬具=4事業所、●建設機械=2事業者、建物、OA機器=各1事業所

【来期計画内容】

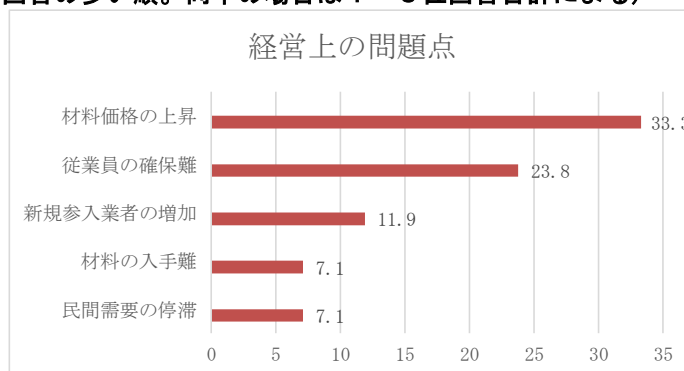
回答47事業所の内、来期は4事業所（8.5%）が計画。

●車両・運搬具、建設機械=各2事業所、●OA機器=1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様の「材料価格の上昇」で4.2ポイント減少した。2位も前回同様の「従業員の確保難」で1.2ポイント減少した。3位は前回番外の「新規参入業者の増加」で11.9ポイント増加した。4位は前回番外の「材料の入手難」、前回3位の「民間需要の停滞」が同ポイントで並び、「材料の入手難」は4.6ポイント増加し、「民間需要の停滞」は2.9ポイント減少した。



小 売 業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R5. 1-3	R5. 4-6	R5. 7-9	今期	来期見込
業況	好 転	13.4	8.5	3.8	7.2	9.6	8.5	7.3
	不 変	52.5	57.4	48.8	54.2	55.5	59.8	54.9
	悪 化	34.1	34.1	47.4	38.6	34.9	31.7	37.8
	D・I	▲ 20.7	▲ 25.6	▲ 43.6	▲ 31.4	▲ 25.3	▲ 23.2	▲ 30.5
売上額	増 加	25.6	13.4	12.8	21.7	16.9	26.8	
	不 変	42.7	56.1	39.8	44.6	53.0	41.5	
	減 少	31.7	30.5	47.4	33.7	30.1	31.7	
	D・I	▲ 6.1	▲ 17.1	▲ 34.6	▲ 12.0	▲ 13.2	▲ 4.9	
資金繰り	好 転	6.3	6.3	2.7	2.4	4.9	2.5	
	不 変	68.4	64.6	64.9	70.8	73.1	74.7	
	悪 化	25.3	29.1	32.4	26.8	22.0	22.8	
	D・I	▲ 19.0	▲ 22.8	▲ 29.7	▲ 24.4	▲ 17.1	▲ 20.3	
商品仕入単価	上 昇	72.0	62.2					
	不 変	25.6	32.9					
	低 下	2.4	4.9					
	D・I	69.6	57.3					
採算(経常利益)	好 転	9.8	7.3					
	不 変	50.0	56.1					
	悪 化	40.2	36.6					
	D・I	▲ 30.4	▲ 29.3					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

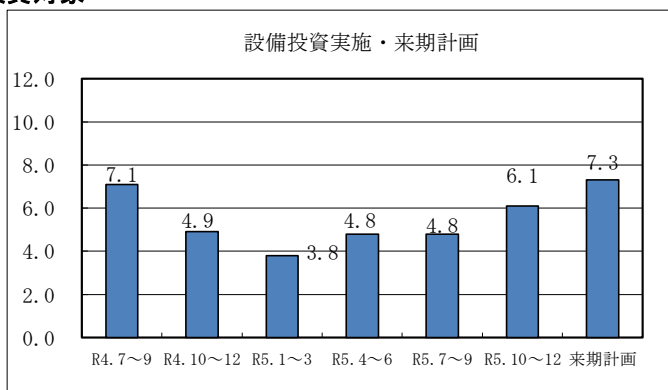
回答82事業所の内5事業所(6.1%)が実施。

●車両・運搬具=3事業者、土地、販売設備、付帯施設、OA機器=各1事業所

【来期計画内容】

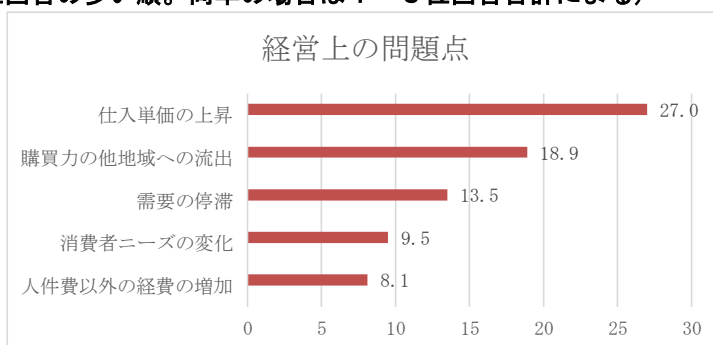
回答82事業所の内、来期は6事業所(7.3%)が計画。

●販売設備=3事業所、●OA機器=2事業所、●車両・運搬具=1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様「仕入単価の上昇」で0.3ポイント減少した。2位も同様「購買力の他地域への流出」で前回から5.8ポイント減少した。3位も前回同様「需要の停滞」で0.8ポイント減少した。4位は前回番外の「消費者ニーズの変化」で5.6ポイント増加した。5位も前回番外の「人件費以外の経費の増加」で5.5ポイントの増加となっている。



サービス業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R5. 1-3	R5. 4-6	R5. 7-9	今期	来期見込
業況	好 転	2.7	2.7	5.8	11.8	9.1	0.9	4.5
	不 変	63.1	68.5	53.8	63.7	68.2	66.7	66.7
	悪 化	34.2	28.8	40.4	24.5	22.7	32.4	28.8
	D・I	▲ 31.5	▲ 26.1	▲ 34.6	▲ 12.7	▲ 13.6	▲ 31.5	▲ 24.3
売上(収入)額	増 加	20.7	9.0	14.3	30.6	33.6	12.6	
	不 変	51.4	64.0	38.1	41.5	41.9	50.5	
	減 少	27.9	27.0	47.6	27.9	24.5	36.9	
	D・I	▲ 7.2	▲ 18.0	▲ 33.3	2.7	9.1	▲ 24.3	
資金繰り	好 転	2.8	0.9	1.0	5.5	6.5	1.8	
	不 変	74.3	77.1	71.8	72.5	74.1	76.2	
	悪 化	22.9	22.0	27.2	22.0	19.4	22.0	
	D・I	▲ 20.1	▲ 21.1	▲ 26.2	▲ 16.5	▲ 12.9	▲ 20.2	
仕入単価(材料等)	上 昇	67.9	57.8					
	不 変	30.3	39.4					
	低 下	1.8	2.8					
	D・I	66.1	55.0					
採算(経常利益)	好 転	3.6	3.6					
	不 変	58.6	62.2					
	悪 化	37.8	34.2					
	D・I	▲ 34.2	▲ 30.6					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

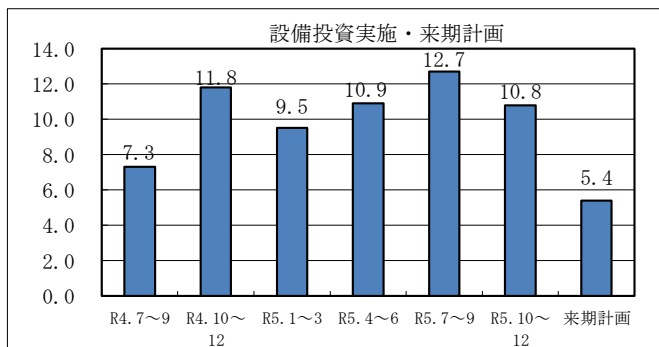
回答111事業所の内、12事業所(10.8%)が実施。

●サービス=5事業所、●車両・運搬具=4事業所、●その他=2事業所、●建物、付帯施設=各1事業所

【来期計画内容】

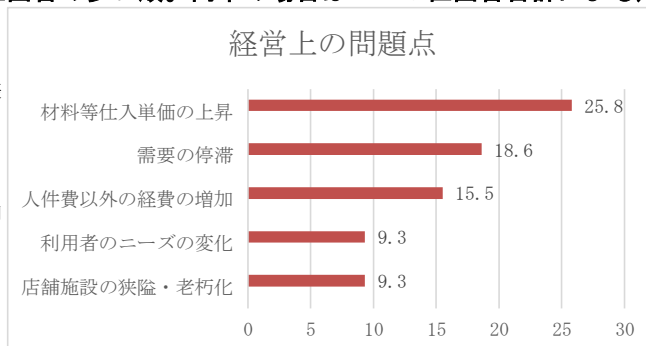
回答111事業所の内、6事業所(5.4%)が計画。

●車両・運搬具=3事業所、●建物、サービス、付帯施設、その他=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様の「材料等仕入単価の上昇」で、1.5ポイント減少している。2位も前回同様の「需要の停滞」で1.6ポイント減少した。3位も前回同様「人件費以外の経費の増加」で0.3ポイント増加した。4位も前回同様「利用者のニーズの変化」で0.8ポイント減少した。5位は前回番外だった「店舗施設の狭隘・老朽化」で4.1ポイント増加した。



4. 全国と対比した主要景況項目の動向 -前年同期比D I-

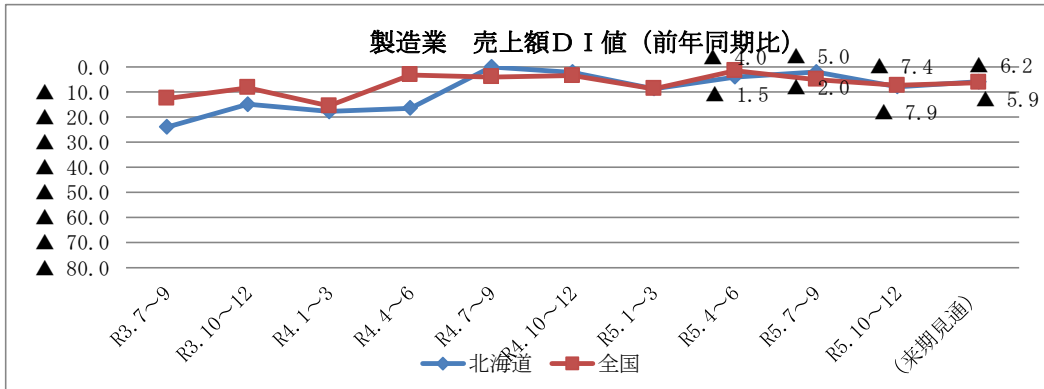
【各調査時期における前年同期比の「増加(上昇・好転)」回答企業比率-「減少(低下・悪化)」回答企業比率】

製造業

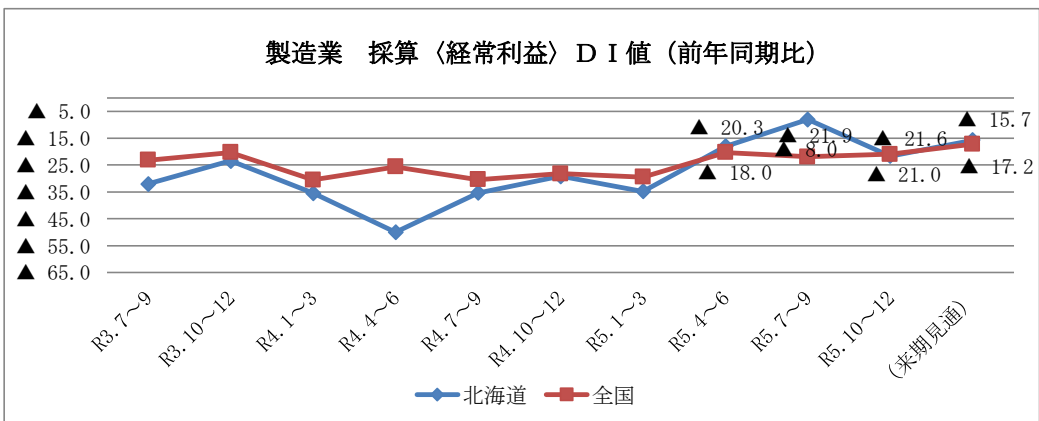
【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

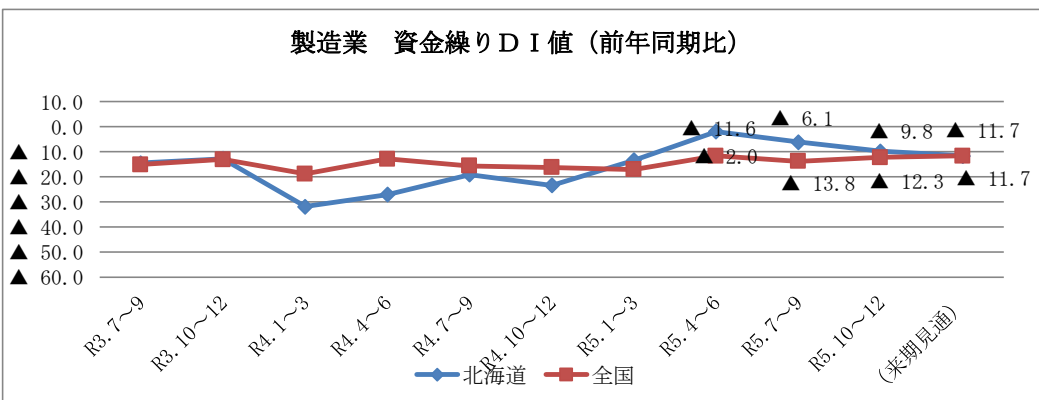
売上額



採算



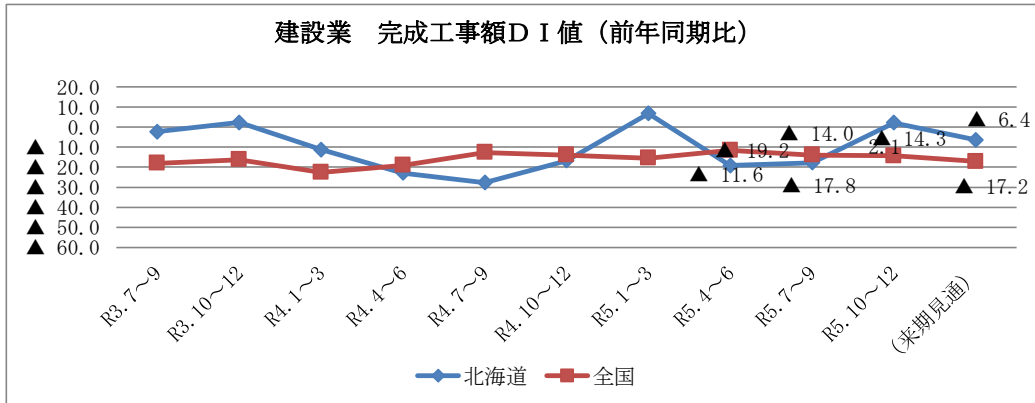
資金繰り



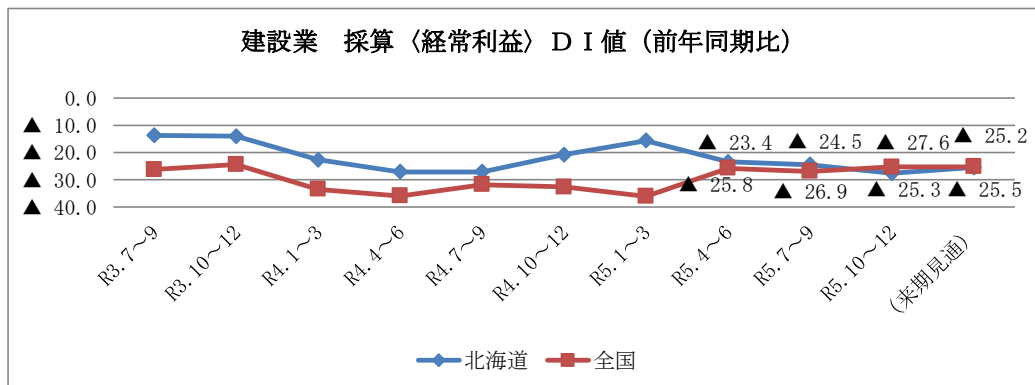
建設業

【北海道】(今期)完成工事額▲DI値…減少、採算▲DI値…減少、資金繰り▲DI値…減少
 (見込)完成工事額▲DI値…減少、採算▲DI値…減少、資金繰り▲DI値…上昇
 【全国】(今期)完成工事額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)完成工事額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

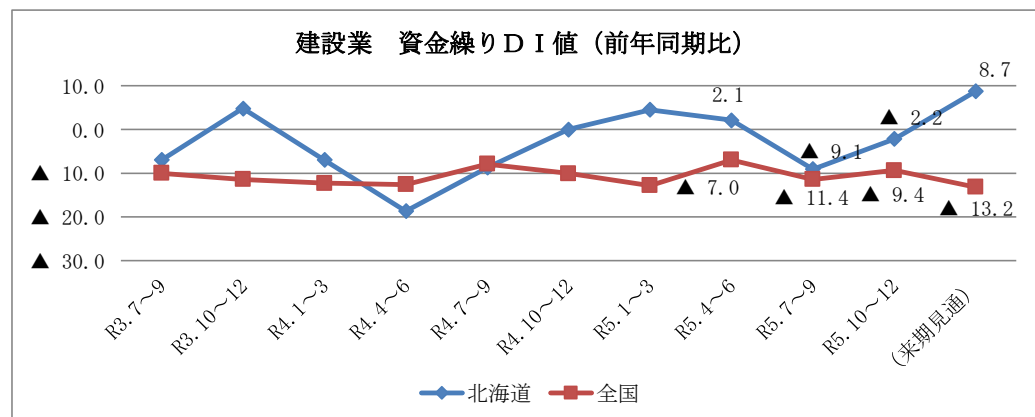
完成工事額



採算



資金繰り



小売業

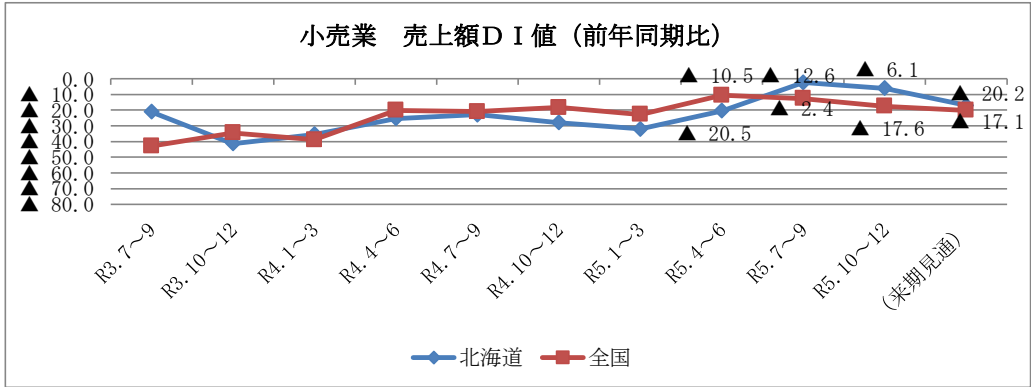
【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

(見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

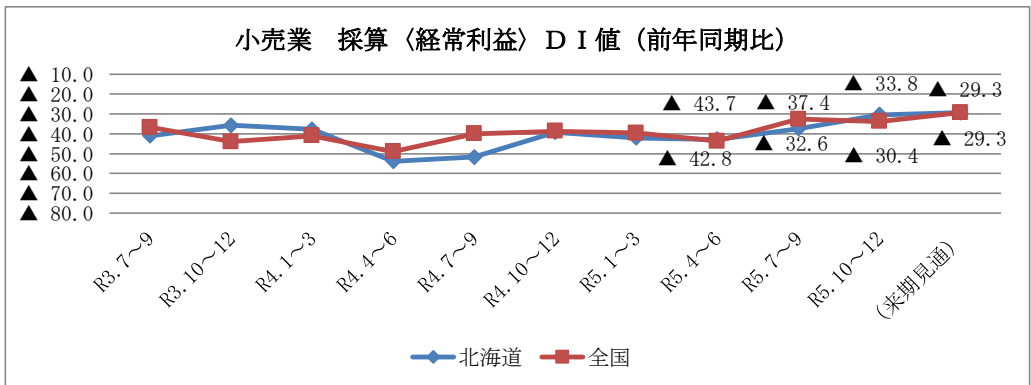
【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

(見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

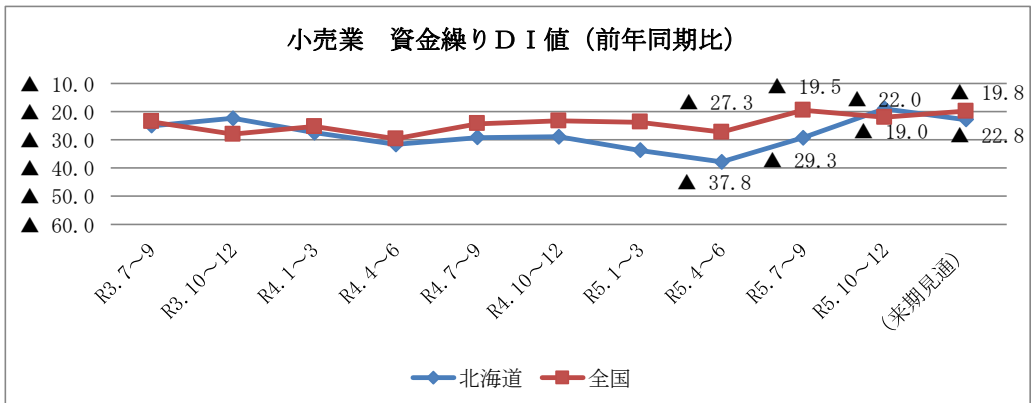
売上額



採算



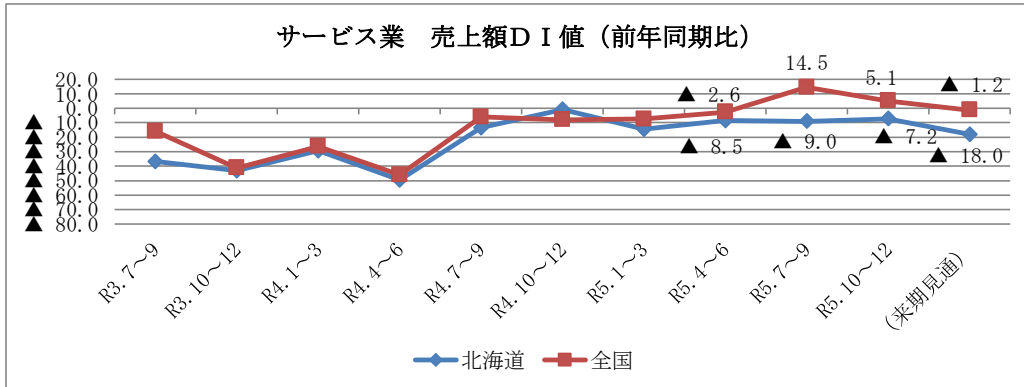
資金繰り



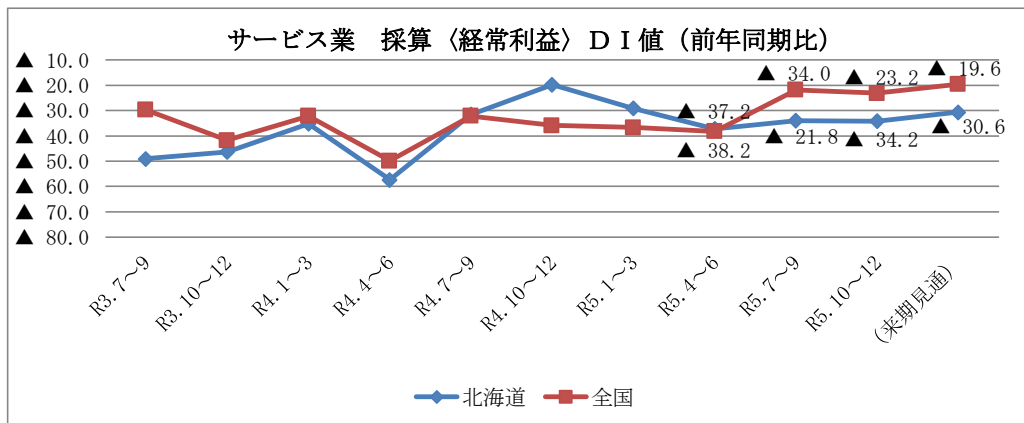
サービス業

【北海道】(今期)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

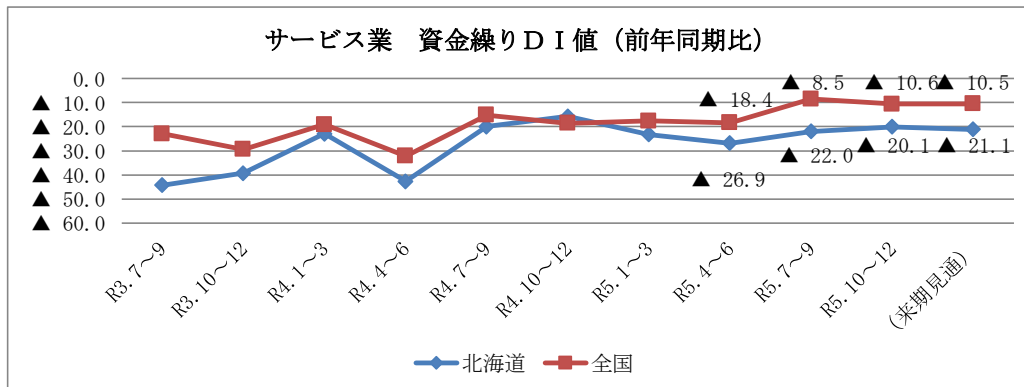
売上額



採算



資金繰り



5. 自社の業況判断の背景について感じている事(調査対象企業の声)

業種	内容
製造業	<p>○豆腐製造に係る従業員の入院により豆腐製造が行えない。</p> <p>○原材料等の上昇が続いており、製品代やナメシ工賃を初めて大幅に改定する。単価の低い仕事が多数なので、今後はより利益を上げてプラスが出る仕組みに変える。マンパワー不足を労働時間でいかにバランスをとるか課題。</p> <p>○売上は安定してきたが、原材料の価格上昇、バター仕入が昨年度の月実績70%しか出来ない等の不安がある。</p> <p>○前年はマスコミの影響で売り上げ大幅アップ。売上高は来年の3月まで続き前年割れが発生する。</p> <p>○今年、来年、再来年(端境期と事業の交替期)を乗り越えると安定する見込みである。</p> <p>○工事に使用する消耗品の値上が9・10月にあり、10~15%上がった。生コン価格も昨年から5,000円くらい上がっており、価格にすべて転嫁することは難しい。単価を上げていかなければ経営が厳しくなる。</p> <p>○十勝産大豆だけしか使用しないというこだわりなので原料不足と従業員の不足、それに加えて生産設備の老朽化が背景があります。</p> <p>○売上回復の遅れと原材料価格の上昇と資金不足の3重苦への対策が思いつかないことが現状であり、知恵が欲しいと思っています。</p> <p>○度重なる原材料の高騰に加え、光熱費や燃料費等の負担額が激増している中、年次契約の受注は売価を上げることができない。次年度の予算見積額の設定も難しい。設備の老朽化への対策も考えなければならない。</p> <p>○原材料高騰も去年よりゆるやかにになり価格転嫁がようやく追いついた。メイン材料の一部は価格が落ちてきているものもあり、今後は更に業況は良くなる見通し。</p> <p>○ウクライナでの戦争に伴い小麦等の原材料の高値継続と物価の上昇に伴うニーズの変化により売上が低下している。その一方でコロナが5類となり、法事用の菓子の売上がもどりつつある。</p> <p>○当面は、営業利益占有率の高い、地域外からの集客を持続するための広報活動、商品のクオリティ向上、来店客にいいものの原点発見と本物志向を感じる仕掛けを訴求する。</p> <p>○世界の政治、経済、治安の不安定さが経営判断を困難にしている。</p> <p>○当社が取り扱う魚種は減少しつつあるが、ブリ等の豊漁で採算がとれている。従業員の確保が難しい。</p>
建設業	<p>○民間需要の停滞が目立ちます。特に4月は個人法人問わず民間需要が冷え込んでおり、未だに業況は回復していません。予定案件も未着手、他案件も引き合いが少ないことから事業案件の総量が例年よりも少ない状態です。</p> <p>○官公庁の工事が減少傾向で、当社の売上に大きく影響が出ている。人件費の引上げや物価高騰と経営環境が難しくなっていく中、売上を維持、収益の確保が課題となっている。</p> <p>○人がいなければ話にならないが人件費だけでなくその他の経費が上がり続けるのが大変。官公は経費率が上がり中身は薄くなり、民間は安さを求めて離れていく。人がいなければ施工が入れず、離れていく悪循環。</p> <p>○今期は気温が高かった為、空調関係(特にエアコン)が出荷が増えた為、入荷が遅れ、来期は来期は納期の予定が立たなくなる見込みだ。また、2024年問題もあり、人手不足が更に進むので、景気の悪化が予測される。</p>

<p style="text-align: center;">小 売 業</p>	<p>○昨年、ニセコエリアは人材不足で宿泊施設、飲食店の稼働率が低いとされていた中でも集客が多かった。今期はフル稼働すると言われており、既に新規のお問合せも多く、昨年以上の集客が見込まれる。</p> <p>○仕入単価があらゆるもので上がっている。</p> <p>○販売価格の値上げで売上額は上がっているよう見えるが、実際は仕入額も上がっているため利益増加にはいたっていない。</p> <p>○猛暑の影響から成果の価格高騰と品不足の影響が大きい。物価高については全般的に受け入れられている感触はあるものの、消費する物の優先順位を意識している傾向にあり、この先の消費動向が読みづらい。</p> <p>○仕入単価が上がり、収益性の改善が急務となっている。</p> <p>○9月末にて廃業することとなった。</p> <p>○人口が減少している。</p> <p>○管内から大型店が撤退し地方店は価格破壊が減少し新規ユーザーの確保を含め良い方向になって来ていると感じます。人口減少は進んでおりますが各町村の必要性がそれぞれの分野で変わり適応する事が残る道ではないかと。</p> <p>○購買力の低下、人口減少により客単価の減少、郊外からのお客さんが上昇してきている。</p> <p>○仕方がないこととはいえ、ここにきて家具を購入する事が一番最後に考えることなのだと実感している。集客の方法ややり方を改めて考えた方が良いのかもしれない。</p> <p>○当店の利用者は高齢者が占め、主に年金で生活している顧客が多いため、依然として続く価格高騰、物価上昇に伴い価格の安いスーパーや宅配システムの流出し続けている。</p> <p>○物価上昇の波が止まらず、大中小企業のどれもが仕入れ額変更を提示してきている。現状、利益率の観点からまだ当社商品の値上げは考えていなかったが、○年始に向け準備を進めることにした。上昇率は5%程度を予定。</p>
<p style="text-align: center;">サ ー ビ ス 業</p>	<p>○長期借入金(国金)を一括返済。母から借入して返済し金利負担圧縮。夫(自動車関連社員)の理解がある旨、経営維持は可能。</p> <p>○給与上げられない!消費税を早く減税してほしい。税金に苦しめられてるいい加減にしてほしい。物価上昇もやめてほしい。よくなんかならない!!</p> <p>○コロナが終息して固定客の来店サイクルが短くなり売上増加傾向。新規顧客も一定の割合で増加している。さらなる新規顧客確保課題。</p> <p>○新規顧客及びリピーターの減少が痛手。</p> <p>○普通に生活できる利益が出ない。値上げすればいい話ではない。安いからお客が来ているだけ。客は得するものしか食べない。すべてが高いので困る。切り詰めるのも限界です。</p> <p>○隣接町に「すきや」ができる。これに続いて他の全国規模のフランチャイズが来るとちょっと困るかも。</p> <p>○北海道LOVE割など補助金がなくなり、宿泊客が伸び悩んでいる中、燃料費など経費がかさむため宿泊の単価を値上げした。暖冬と予想されるのでスキーリゾート地の日本人の利用数が読めない。</p> <p>○利用者のニーズが、コロナが収まり外国人が増えてくる傾向にある。変化するニーズに対応していかなければいけない。英語ができる熟練スタッフの確保、若者の確保が難しい。</p> <p>○利用客の需要の低下。以前より高齢者の頻度が減った。利用単価も減少し、パーマやカラーが減っている。</p> <p>○宿泊稼働率は徐々にコロナ前に戻ってきているが、ファミリー層の宿泊予約がまだまだ増えてこない</p> <p>○インボイス制度が10月から始まったことで客単価を上げたことにより多少資金繰りは改善されているが、年度末の消費税納付に貯めておく必要がある。</p> <p>○仕事量はあるが、従業員不足に加え高齢化している作業員の負担が大きく、労基法の超過勤務時間の制約がある中で業績を上げることは至難の業です。資金○繰りもさることながら業況の好転は非常に難しいと思われます。</p> <p>○売上は多少上昇しているが、経費も全般に上がっているため、利益率は変わらないと思う。事務所のリフォームは、来期中に行う予定です。</p> <p>○仕入れ単価の上昇により利益を出しにくくなっている。</p> <p>○前年度と比較して来客数の変化は感じないが、値上げにより客単価が上昇した。冬場(今期)は事業の閑散期にあたるため、比較業況は悪くとした。また、10~12月は光熱費等の販管費の値上げにより赤字になる見込。</p> <p>○物価高騰による原価率の上昇で利益が少なく感じる。客単価を上げたいが思った効果がでない。メニューの見直しを検討している。</p> <p>○材料費や燃料費の高騰と従業員の確保難によりなかなかうまくいかない。</p> <p>○経費や仕入単価の増加。事業主が高齢のため利用者の人数を制限せざるを得ない。</p> <p>○農業、漁業ともに景気が停滞している。もう少し気持ちが落ち着いて来たら、人の動きも良くなると思う。冬が過ぎて来年の春頃かな?と思っている。</p> <p>○事業縮小もあり全体の売上自体は減少。仕出しの伸びは多少あるが材料等仕入単価の上昇の影響は相変わらず大きい。資金繰りは困難な状況。原価率等の見直しも図り改善に努めていきたい。年末の売上に期待をする。</p>